

提案名	「木住協ながい木の家モデル」～持続可能な選（よりどり）の家～	分野	木造等循環型社会形成の分野に係る提案
提案者	木住協グループ	種別	システム提案
構造	木造住宅（在来軸組）	建て方	一戸建ての住宅

■提案の基本的考え方

1. 省資源・再利用・廃棄物抑制の実践を理念とし、「持続可能な森林から産出された木材」「リサイクル建材」「再生可能エネルギーの活用」を積極的に取り入れる設計誘導を行い、持続可能な木造住宅の供給に寄与する。
2. 長く地域に愛される住宅として、地形に応じた風や日射など自然エネルギーの利用、および地域産材の活用、デザイン調和に配慮する。
3. 事業者が、長期にわたるきめ細かな点検、維持管理ができるように、漏水危険箇所・防蟻処理のトレーサビリティを確保し、大きな床下空間を設けて配管点検・取替えを容易にするとともに、点検時期のアラーム機能の充実を織り込んである。
4. 住まい手が主体となって、事業者・木住協の三者で相互に補完しあって維持管理・履歴情報蓄積を確実に実施できるように、住まい手が Web 閲覧、データ更新が可能な体制・システムを構築した。加えて安心・安全の観点から災害情報も入手できる。
5. 木住協（提案者）が中小工務店（共同提案者）に対して、設計支援策として当協会建材・設備メーカーの「サステナブル建材・設備カタログ」を提供するとともに、営業支援策として住宅取得希望者に対する長期優良住宅の普及・啓発・販売促進ツールを用意し、共通のルールで支援する。

■提案内容

1. 木住協 持続可能性配慮コード

CASBEE-すまい(戸建て)や農林水産省「木材利用推進計画」に基づいた「木住協 持続可能性チェックリスト」により、持続可能性建材・設備を、容易に設計に織り込めるようにする。具体の選択をするために、当協会の建材・設備メーカー会員の商品を取りまとめた「サステナブル建材・設備カタログ」を用意する。

2. 木住協 まちなみ景観配慮コード

地形に応じた風や日射など自然エネルギーの利用および地域産材の活用、色彩調和、特定行政庁の景観基準など個別設計で対応可能な項目を織り込んだ「木住協 まちなみ景観チェックリスト」により、まちなみ景観配慮のための設計誘導を行う。

3. 耐震等級3の確保

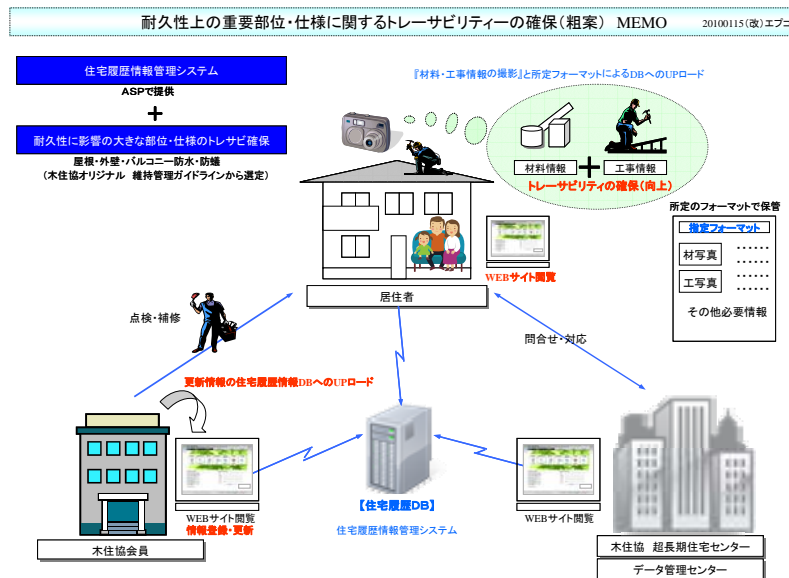
耐震等級3を確保することで、100～200年に一度に起きる程度の大地震による倒壊を食い止め、滅失を減らすことにより、長期にわたって住宅を存続させることを可能とする。

4. 根がらみレス空間基礎

床下空間での点検・メンテナンスの容易性を高め、間取り変更時の配管対応性を向上させるために、基礎内の内寸高さを 600 mm程度とし、鋼製束を用いて根がらみレス空間を確保し、かつヘッダー配管システムを採用する。

5. 住宅履歴情報管理システムを活用した三位一体チェックシステム

事業者は、漏水が起りやすい外壁、屋根、バルコニー防水と防蟻処理のトレーサビリティを確保し、長期維持管理計画書に基づいて1、5、10、15（特に10年を超えて劣化等が出やすい現実がある）、20年時に点検時期をアラームで知ることができる。住まい手には、不具合に対する24時間対応、安心・安全の観点から、地震等の災害情報サービスを行い、住まい手自らがWebサイト閲覧と自己補修（事業者を通さないリフォーム等）のデータ更新ができる。木住協は、上記システムを事業者、住まい手とともに履歴情報蓄積・保管し、支援を行う「三位一体チェックシステム」により、履歴・維持管理体制を構築する。



6. 長期的な維持管理計画

木住協オリジナルの「長期維持管理計画」「維持管理ガイドライン」を作成し、これらに基づいて、居住者の参加を促しながら定期的なメンテナンスを行い、「記録シート」として木住協超長期住宅センター及び木住協会員で管理することにより、上記⑤のデジタルデータと相互補完して長期にわたり計画的な住宅の維持管理を継続する。

7. 住まいのカルテ保管箱

上記⑥に加え「住まいのカルテ保管箱」を用意し「記録シート」「住まいのカルテチェックリスト」「設計図書一式」「設備等取り扱い説明書」を入れる、日常品等と区別しやすい床下や小屋裏空間等に保管することにより、上記⑤のデジタルデータと相互補完して長期にわたって住宅や履歴情報を継承する。

8. 選(よりどり)の家プロモーションツール

中小工務店単独では、顧客に補助制度や長期優良住宅を理解されにくい現状を踏まえて、国家事業として当該先導事業や長期優良住宅の主旨説明等の支援ツールを木住協で作成・支給し、共同提案者が広く利用することで、普及啓発と販売促進をバックアップする。

■提案者からのコメント

1. 木住協を構成する中小工務店が取り組むことにより、長期優良住宅への理解度が高まり、それに伴い住宅そのもののレベルの向上を期待する。
2. 社団法人として、今回応募しなかった木住協会員に対しても今回の提案技術を採用してもらうことにより、長期優良住宅の全国的な広がりを期待する。
3. 建設時の環境への負荷が比較的小さい木造住宅に、永く住み続けることで、さらに地域の環境への意識・関心を高めることができる。